

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／戸田 茂
URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の教育への取り組み・・・1～2	国際交流・・・・・・・・・・・・・・4～5
	データサイエンス学部の	ゼミナール紹介・・・・・・・・・・5～7
	・教育研究について・・・2～3	資格取得等報奨制度について・・・・7
	学生活動だより・・・・・・・・・・3～4	報奨金給付者の声・・・・・・・・・・8

経済学部の教育への取り組み

経済学部長 田中英明



経済学部長 田中英明
 はこれまで、後援会も、後援会会員の皆様のご支援のおかげで、学際的・総合的に、多様な学習の機会を提供してきました。入試や就職の状況に現れているように、その強みや特徴への社会的な評価や期待もいっそう高まっています。

他方で、社会の急速な変化の中で大学教育の課題や期待される人材のあり方も絶えず変化しています。実績や評判に安んじていては、輝かしい百年の伝統を、次の百年へと繋いでいくこともままならなくなりかねません。

少子化や環境破壊などが招く様々な課題を克服し、活力に満ちた平和で心豊かな生活を実現するための鍵となるのが、知識集約型社会への移行であり、そのため大学やその卒業生に期待される使命はますます重くなっていくことでしょう。とは言え、既存のモデルを懸命に模倣する時代はとうに過ぎ去り、様々な課題解決の先に新たな価値を創出するこ

とが求められるのがこれからの社会。ますます複合的・分野融合的に知識を習得することを求められるだけでなく、その知識を多様な人々と共有し活用する実践的な力が必要であり、そのために様々な学習経験を積んでいくことが求められます。

そのために、国立大学のあり方もこの十数年の間にかんがりの変化を遂げてきました。しかし、時代の潮流や熱狂に抗うことができず、むしろわが国はもとよりアジア諸国に多大な災いや苦しみをもたらすことに加担してしまつた高等教育機関への真摯な反省が戦後の新制大学の原点であることも忘れてはなりません。

地域の知の拠点として、新しい時代を築く先頭に立つことと、安易に変わらぬ踊らされない冷徹な目を持ち続けること。この矛盾を孕んだ役割が大学の使命であるように、大学で学ぶ学生も、社会・ビジネスの最先端を切り拓く知識・能力とともに、新奇さを求める熱狂から距離を置いて人類社会の普遍的な知に根ざした思考を巡らす学力を培わなければなりません。

本学部のカリキュラムは、経済・ファイナンス・マネジメント・マーケティングの分野の先鋭的な知識を、歴史・法・文学・哲学などの関連・隣接分野も含めた理論的・学史的な思索とともに学ぶという学際性・総合性を誇っています。その基盤の上に個性的な演習(ゼミ)を中心とした少人数教育や、プロジェクト科目などの課題解決型の教育が展開され、また

熱心なクラブ・サークル活動もあいまつて多くの学生達は主体的・積極的な学びの日々を送っています。

この後援会だよりの紙面に溢れているように、学生達が挑んでいる学習経験はいっそう主体的で積極的なものへと高まってきています。海外留学やボランティア活動、難関とされる資格の取得、学外のゼミ大会やコンペ、こうした経験を力に変えた卒業生の活躍が本学部の新たな歴史を刻み始めています。

本学部が理念として掲げる「グローバル・スペシャリスト」の育成には、こうした基盤となる知識や思考力の涵養と多様な学習機会の提供が欠かせません。これまでの成果にあぐらをかいているわけにはいきませんが、こうした強みを捨て去るような拙速な「改革」に走るわけにもいきません。

そこで本学部では、抜本的なカリキュラム改革と、データサイエンス学部等との連携の強化によって、こうした実践的、集中的な学習経験を、より広く深く、ますます多様に、正規課程に組み込むことで、視野の広く伸びしろのある人材育成という特色をさらに強化すべく準備を進めています。

同時に、すでに導入した特徴的なプログラムやプロジェクトがより効果的となるよう、在学生への指導や案内にも力を入れています。例えば、「データサイエンスを副専攻として学ぶ」「政策・ビジネス革新創出人材プログラム」では、経済・経営の課題に数理的な分析に基づいてアプ



2020年春、文化・教育・研究の拠点として
再生する大学講堂（イメージ図）

ローチでできる文理融合的な学びが特徴です。そのために2回生の春学期までの3セメスターで、データサイエンスの基礎を習得する履修計画を指導しています。

また、証券アナリスト、FP、公認会計士、統計検定などの高度な資格取得を専門基礎教育における学修成果の目安として活用する「高度専門人材育成プロジェクト」は、演習と講義科目、補講や自習用教材に学生の自主的な研究会を組み合わせた集中的な学習方法の特徴としています。今後は彦根キャンパスの二学部の学生がともに切磋琢磨する刺激的な学びの場へと進化させていきます。

海外留学・研修をめざす学生のために、多様な実践的英語学習を組み合わせた新たなプロジェクト科目もスタートしています。

こうした学部の教育への取り組みに今後ともご支援ご協力をいただきますようお願いいたします。

**データサイエンス学部
の教育研究について**

データサイエンス学部長

竹村 彰 通



データサイエンス学部は、3期生が開設以来、3年目で1期生が3期生となり、各教員のゼミにも配属されました。一期生の就職活動も本格化してきました。ここではデータサイエンス学部の最近の動きのうち、3回生のゼミの様子、インターンシップ活動、大学院データサイエンス研究科の完成、企業と連携した研究活動についてお知らせします。

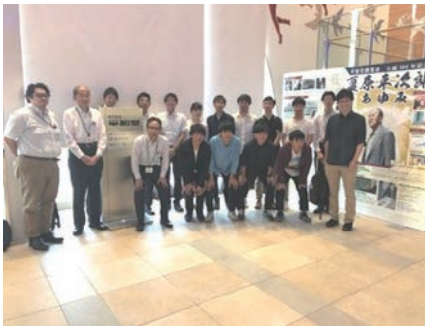
この4月より3期生は各教員のゼミに所属して、データからの価値創造の実践的なプロジェクトに取り組んだり、教員の専門分野について学んだりしています。特にデータサイエンス学部のゼミに特徴的なのは、企業との連携プロジェクトです。河本薫ゼミでは、インターゼミホールディングスと電通の協力のもとで、両社のマーケティングのプロからアドバイスを受けながら、現実のマーケティングチームに挑みました。この実践は7月31日の日本経済新聞朝

刊で大きくとりあげられ、同ゼミを受講する学生の4月以降の成長の様子が紹介されました。

また清水昌平ゼミでは株式会社平和堂との共同研究に取り組み、7月24日に平和堂本社を訪問し、共同研究の進捗について平松社長等役員の方々に報告しました。担当者の方からは「本日はすばらしい発表をありがとうございました。満足度のいく内容でよろこんでおります。」という感想をいただきました。



河本ゼミ発表会
(インターゼミ西日本支社にて)



清水ゼミ報告会
(平和堂本社にて)

第二に、データサイエンス学部では、夏季休暇等を利用して、企業等で実際にデータ分析を行うインターンシップを実施しています。一般的なインターンシップでは1日から数日での企業の業務の概要を紹介するものも多いのですが、データサイエンス学部では数週間から1か月程度の長期のインターンシップも実施しています。今夏は、本学と連携協力関係にある20社以上の協力を得て、3期生39名、2期生7名が参加しました。多くの企業では、受入企業のご厚意で、往復の交通費および宿泊費を先方に負担いただいています。これらのインターンシップでは、受入企業においてデータ分析を行っている部署に配属され、日頃のビジネスで利用しているデータを使って、その企業で実際に問題となっている課題を自分たちなりに分析し結果をまとめてプレゼンテーションを行うという、一連の業務の流れを体験しました。

第三に、データサイエンス研究科の現状について述べます。この4月には日本初のデータサイエンス研究科修士課程が開設されました。学部の卒業生がまだいませんので、修士課程に入学した人材はすでに企業や自治体でデータサイエンスに業務としてかかわっている社会人が主となります。実際に23名の入学生のうち19名は企業からの派遣の院生です。さらに博士課程も来年4月に設置すべく準備を進めてきました。3月末には文部科学省に設置申請書類を提出し、その後の修正要求などに順次

対応して、9月6日に文部科学省より正式な設置認可がおりました。これにより学部から博士課程まで、日本初のデータサイエンスの一貫した教育体制が完成します。データサイエンス学部生の多くは学部卒の段階で就職していくものと思えますが、IT系企業など一部の企業では理系修士の採用をメインとしている企業もあり、そのような企業への就職を希望する学生の方は、修士課程への進学も考えていただきたいと思います。さらにデータサイエンスの研究者を目指す人は博士課程も視野に入ると良いと思います。

最後に企業との連携活動にふれます。学部のゼミや修士課程への社会人派遣など、データサイエンス学部は企業との連携を積極的に進めています。これまでに企業や自治体との連携協定は40件をこえ、また共同研究・委託研究を含めると延べ100件をこえるまでになっています。特に重要な連携としては、トヨタグループの人材育成プログラム「機械学習実践道場」の実施、あいおいニッセイ同和損保と共同で設立した「日本セーフティンサイエティ研究センター」における共同研究があげられます。また7月11日には株式会社帝国データバンク共同で「帝国データバンク」滋賀大学Data Engineering and Machine Learningセンター（DEMLセンター）を設立し、実践的なデータ研磨の実装や予測モデリング開発など、データサイエンス技術の高度化に向けた教育研究を推進します。

学生活動だより

令和元年度(第1回)滋賀大学学長賞について

6月2日、令和元年度(第1回)滋賀大学学長賞授与式を行いました。滋賀大学学長賞とは、①「極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生」②「課外活動や、文化・社会活動などで特に顕著な成果・功績のあった学生・団体」を表彰するものです。

授与式では、喜名理事より選考結果の概要について説明があり、位田学長から受賞者に表彰状と楯、副賞が授与されました。いずれも滋賀大学の名誉を大いに高めた功績を称えられました。



受賞を受けた学生の皆さん



各受賞団体等と受賞理由については以下のとおりです。
(彦根キャンパスの学生関係のみ)

経済学部 宇佐美 光弘
日本ウインドサーフィン協会
関西新人大会第1〜3戦 優勝
全日本学生ボードセーリング選手権
インカレ新人戦メンズ 優勝

経済学部 桐野 葵
ピティナ・ピアノコンペティション Yカテゴリー 本選奨励賞
大阪国際音楽コンクールアマチュア部門 ヴィルトゾコース 1位
全国アマチュア学生ピアノコンクール 銀賞 大阪国際音楽賞
大学院経済学研究科
バトボルド ボロルソフタ
論文業績

(著者: Batbold Bolorsud,
菊池健太郎、楠田浩二)
日本オペレーションズ・リサーチ学会和文論文誌…採択
・相似拡大的頑健効用投資家の消費と長期証券投資の最適化問題に対する近似解析
・ Epstein, N. 効用に基づく消費と長期証券投資の最適化問題に対する近似解析

日本保険・年金リスク学会論文誌「ジャリッブジャーナル」…採択
・ CRIS 効用消費者の長期証券投資の有効期間最適化問題に対する解析

硬式庭球部
近畿地区国立大学体育大会
硬式テニス女子の部 準優勝
山下悠ゼミナール
Student Innovation College
秋カン大会 優勝

新入生歓迎マラソンを開催しました

5月18日、滋賀大学体育会伝統行事の一つ、「新入生歓迎マラソン2019」が昨年、一昨年は雨のため中止となつてから3年ぶりの開催となりました。コースは彦根キャンパス運動場を出発し、金亀公園、彦根城と彦根有数の観光地を巡る7キロを新入生、在校生が駆け、日ごろのトレーニングの成果を大いに発揮しました。

近隣住民の方、公道を利用させていただいた皆様のご理解ご協力のもと、今年も新歓マラソンは大成功となりました。これからも滋賀大学体育会をよろしく願います。



マラソンのスタート

第54回滋和二大学学長杯争奪総合定期戦を開催しました

6月22日(土)、23日(日)を中心に第54回滋賀大学・和歌山大学二大学学長杯争奪総合定期戦が開催されました。今年度は和歌山大学が当番

となり、主に和歌山県下で熱戦が繰り広げられました。

本定期戦は、昭和41年からスタートし、今年で54回目を数える伝統のある定期戦で、全国に一部の種目の対抗戦はよくありますが、20数種目にわたる総合的な定期戦は珍しいものです。

22日に行われた開会式では、和歌山大学の伊東学長が式辞、本学の位田学長が祝辞を述べられました。その後、両大学団長である本学の喜名副学長、和歌山大学の永井副学長より激励の言葉が送られました。

1日目終了時までには大幅な劣勢で厳しい戦いを強いられました。しかし逆境に立ち向かう滋賀大学の熱い底力が最終日脅威の追い上げを実現し、和歌山大学に迫るもあと一步届かず総合結果として和歌山大学が5年連続優勝に輝きました。なお、今回より新たに文化系の競技種目として「将棋」を開催しました。将棋はオープン戦として開催のため総合成績には反映されませんが、今後引き続き開催され正式な競技種目となることを期待しています。

23日に行われた閉会式では、永井副学長から「盛り上がって気持ちの熱い人たちがいるとその場の気温も暑くなる。来年以降も開催前からもっと熱く滋和戦を盛り上げていきたい。」との抱負が述べられ、お互いの健闘を称えあい両校の更なる交流を確認しました。
(通算成績は滋賀大学の31勝20敗3引分け)

国際交流

滋賀大学は、世界13の国と地域にある19大学及び1コンソーシアム(大学連合)と全学レベルの学生交流協定(交換留学)を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

留学期間は最長1年以内で、留学期間中の授業料は本学にのみ納入し、留学先大学での授業料は免除されます。ただし、語学力不足により語学コース履修を義務づけられた場合、費用負担が発生することがあります。また、夏季休業期間等を利用して、短期間に目的意識をもって異文化を体験できる海外研修のプログラムも実施しています。

留学体験記

交換留学

ノルウェー大学

経済学部経済学科4回生

羽田野 仁子

私は、2018年8月から2019年5月までノルウェーのサウスイーストノルウェー大学に交換留学をしました。留学をしたいと思います理由はいくつもあります。男女平等で知られるノルウェーではどのよう

主な協定大学一覧

国・地域	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
メキシコ	グアナファト大学
韓国	啓明大学
中国	東北財経大学
台湾	国立高雄大学
タイ	チェンマイラジャバット大学
ノルウェー	サウスイーストノルウェー大学
オランダ	ゾイド大学
フランス	西部カトリック大学
オーストラリア	ディーキン大学

平成30年度 海外研修プログラム参加者

プログラム名	大学名	期間・時期	参加者数
イギリス研修	リーズトリニティ大学	3週間 8月上旬~	9
ミシガン州立大学 夏季語学研修	ミシガン州立大学	4週間 8月下旬~	3
タイ・エコスタディ ツアー	チェンマイ大学ほか	2週間 8月下旬~	17
韓国語・文化研修	啓明大学	3週間 8月上旬~	2
フランス語学・ 文化研修	西部カトリック大学	15日間 9月上旬~	2
オーストラリア研究	ディーキン大学	4週間 2月中旬~	13
メキシコ語学・ 文化研修	グアナファト大学	2週間 2月下旬~	0
中国語研修	東北財経大学	3週間 3月上旬~	0

グローバルインターンシップ in シアトル 8人
経済学部、DS学部の参加者数を掲載

報・経営マネジメントに関する授業を学びました。向こうの大学での授業は日本で履修していたものとは、全く異なりディスカッションやケーススタディが多く、慣れるまでかなり時間がかかりました。最初は、ディスカッションの中で自分の意見をうまく伝えることができず悔しい思いをすることもありましたが、少しずつ慣れ、積極的に参加できるよ



友人とフィヨルド・バイキング体験

うになりました。このような形式の授業を滋賀大学で履修する機会は無かったもので、とても貴重な体験になりました。

日常生活においては、大学の寮に住んでおり、ノルウェー人6人と一つのキッチンとリビングをシェアして生活をしていました。日本では一人暮らしなのでこのような共同生活をする機会はなく、とても新鮮でした。一緒に映画を観たり、料理をしながらお互いの国について語り合ったりと毎日楽しく過ごすことができました。留学中には人生初のスキーを体験し、冬の寒さは厳しかったですが冬のアクティビティを楽しみることができました。期末テスト後には友人とオスロのクリスマスマーケットに遊びに行ったり、北部のトロムソという街までオーロラを見に行ったりと、ノルウェーでしか味わえない数多くの体験をすることができ、約10か月という短い期間ではありましたが、密度の濃い時間を過ごすことができました。

短期海外研修

韓国語・文化研修 (啓明大学)

経済学部企業経営学科2回生

田岡 美 濤

啓明大学での研修の最初に韓国語のレベルチェックでクラスが分けら

れ、私は一番上のクラスに入ることになった。同じクラスの人たちは韓国語で積極的に会話し、レベルも高く、単語がわからなくてもどうにかして伝えようとしていて、「見習わなければならぬ」と刺激を受けた。私は文法はできても、会話で実際に使うとなると上手く使うことができず、実践力がないなど感じた。伝えようという気持ちを持ち、ジェスチャーもどんどん使って、コミュニケーション能力を上げる努力をし、研修の最後の方では、会話が少しわかるようになり、韓国語を積極的に使うことができたと思う。



友人とチムジルバン (韓国サウナ) 体験

ならないことがわかった。偏見を持たったり、聞いたことだけを鵜呑みしたりせず、実際に自分がかわって判断することが大切だと思った。

私はKPOPが好きで韓国に興味があったので今回の研修に参加したが、自分が使える韓国語を使って、話を聞いたり話したりするのはとても楽しいことだなと気づいた。今まではあまり興味なかったが、今は興味があり、注意して聴いてたっただけのワンプレーズでも意味がわかるととても嬉しい。これからも韓国の文化にはかかわっていくと思うが、今回の研修で得た韓国語力を使っていたらいいな、さらに上げることができたらいいなとも思う。将来に韓国語を活かすことはまだ考えていないが、自分が少し使える言語としてこれから関わっていききたい。

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門演習Ⅰ・Ⅳ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続し

て4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。ゼミは、2年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することを目的としています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

村松ゼミナール

経済学部准教授 村松 郁夫

村松ゼミで学ぶ領域は、コーポレート・ファイナンス(経営財務論)です。事業活動に必要な資金を調達し、投資することを通じて利益

を生み出す。そして、利益を資金提供者に還元する。そのような意思決定が企業価値にどのような影響を及ぼすのかについて考察します。経営学の他の領域と異なり、株主価値重視の経営、つまり企業価値を理論的考察の軸に据えているため、株価、財務政策、決算情報など、株式関連データや開示情報もフォローしています。最近では、自己株式、株式報酬制度、組織再編行為など、財務政策について経営者の選択の幅が増しているため、コーポレート・ファイナンスのスタンダードな理論を学ぶだけではなく、今日的な話題としての新しい制度や財務政策についても取り上げています。

3回生のゼミ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)では、資本調達決定および利益処分政策、投資決定について、標準的テキストをそれぞれ春学期と秋学期を通じて輪読し、コーポレート・ファイナンスの2大領域について基礎知識を身に付けていきます。4回生のゼミ(専門演習Ⅲ・Ⅳ)では、各自がテーマを選択し卒業論文にま



ゼミの授業風景

めていきます。とはいっても、全員がコーポレート・ファイナンスに関する卒業論文を選択するわけではありませんし、就職活動も同時に行わなければならないので、論文作成に十分な時間を確保できるわけでもないようです。選択するテーマは自由で構わないのですが、論文を作成するにあたり、「何を明らかにしたいのか」、「通説としてどのようなことが言われているのか」、「理論の整理や分析の結果、何が明らかになったのか(明らかにならなかったのか)」など、論文の形式や構成も含めて、学術的な取り組みとして仕上げるように求めています。

ここ数年間、就職先として地方公務員を希望するゼミ生が多かったのですが、公務員の場合、民間企業よりも採用決定時期が遅くなるのが悩ましいところです。民間企業の内定を確保しつつ複数の地方自治体を受験するのは、精神的にも肉体的にも金銭的にもかなりきつそうです。多くの学生は4回生の春学期は就活期間と考えているようで、早々と「落ち着き先」が決まっても卒業論文については、ゆったりと構えている傾向がみられます。また、金融機関を就職先として選択する学生が多いのも滋賀大学経済学部の伝統ですが、ゼミ生の中には、ファイナンス分野のスペシャリストとして仕事に携わりたいという希望を抱いている者もあり、資格取得のための勉強に励んだり、ファイナンスの知識を幅広く身に付けようと真摯に取り組んでいる学生に出会うと、さすが滋賀大生と頼もしく感じます。

杉本・松井 自主ゼミ

データサイエンス学部教授

杉本知之

データサイエンス学部は、今年度で3年目となり、各学年約100名の1回生から3回生の学生達はより賑やかなる雰囲気のもとで勉学に励んでいます。教員もまた新設の講義を担当する機会も増えてきました。国内最初のデータサイエンスの学部ということを知って入学してきた学生達は、文理融合という新しいとり組みの中、多少の戸惑いがあったとは思いますが、色々なことに挑戦して自分の可能性を試してみようという意欲があります。企業のインターン、スポーツや企業データの分析などのコンペティション、ここで紹介する自主ゼミに多くの学生が積極的に参加しています。

データサイエンス学部でも3回生からゼミ配属が行われ、そこで各テーマに特化した教育が行われま



自主ゼミの様子

す。データサイエンスの様々な領域の教員がおり、通常のゼミがまだ開講されていない1、2回生や、既にゼミ配属されている3回生でも色々な事を学んでみたいという希望があったり、通常型の講義に加え、より高度な専門的な領域をもっと学びたい、これまで学んだことの理解不十分な点を補いたいという希望もあります。そのようなことを踏まえ、学年に関わらず誰でも希望すれば参加できるゼミ(通称自主ゼミ)が学期ごとに開催されています。今年度の春学期は「機械学習」「企業データ分析」「音声データ処理」「画像ディープラーニング」「量子コンピュータ」「スポーツ心理学」「臨床試験」「防災」「数理統計」「統計数学演習」などのテーマで多数のゼミが用意されました。

私達の自主ゼミは「統計数学演習」のテーマで行うことにしました。昨年の「統計数学」の授業アンケートで演習を行って欲しいという希望が多かったこともこのテーマをとり上げた理由の一つです。3回生と2回生では知識のベースに差があるので、2、3年でクラスを分け、松井秀俊先生と共同で行うことにしました。他の自主ゼミでは研究の要素が強いものが多いので、我々の統計数学演習は少しレギュラーな位置づけです。この自主ゼミでは、こちらで統計数学の演習問題を多数用意し、学生がその演習問題を解くという形式で始め、統計数学の講義内容をより高いレベルで理解すること、統計検定2級や準1級以上を修得することを目標にしました。多く

この学生に参加してもらえよう、参加の事前連絡は必要ないことや毎週参加できなくてもよいこととし、また、こちらで用意した演習問題の他に、統計検定の過去問を解いてもらうことなども可能としました。

これらの工夫により、多くの学生が参加し、とくに統計検定の受験日前の6月中旬の週は通常よりも多くの参加がありました。その反動としてか、統計検定の受験日以降は参加者が減ってしまったことは残念でしたが、今後に向け、統計検定を明確な目標に位置付けることが学生の頑張る動機に有効であることが分かりました。また、統計数学の単位取得率は例年と同程度だったので、参加すべき学生がこの自主ゼミに参加していないこともわかり、今後のよい反省材料となりました。

自主ゼミに参加して頑張った学生が期末試験で高得点であったり、当初基礎力に不安のあった場合でも統計的推測や確率分布の入門演習に取り組みことで基礎を完成させ、統計検定2級に合格するなどの成果がみられました。データサイエンス学部で卒業生が出るのはまだ約1年先ですが、データ活用や価値創造ができる人材を欲していることの期待の表れとしてかなりの求人依頼がきています。このような期待に加え、統計検定2級や準1級などの基礎学力を身につけておけば、さらに活躍していくための足腰が鍛えられます。採用側としては基礎学力を保証する安心材料になります。日々を楽しくみつつも、このような機会をうまく利

用して、自分の能力を高めていくことを期待しています。

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは

令和元年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧
(平成30年4月から平成31年3月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額(円)	給付件数	給付者氏名(敬称略) (回生は申請時)
資格・認定試験	税理士試験	(1)会計学に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	80,000	0	
		(2)税法に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	50,000	1	森田茉莉子(経済院博士2回生)
	公認会計士試験	「短答式試験」合格者	100,000	2	梶山純平(経済学部4回生) 早野雅紀(経済学部4回生)
	日商簿記検定試験	「一級」合格者	50,000	2	清澤英正(経済学部2回生) 早野雅紀(経済学部4回生)
	証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	1	高橋玲那(経済学部3回生)
		「第2次レベル試験」合格者	40,000	3	岩川真丈(経済学部3回生) 長尾勇太郎(経済学部3回生) 菅 裕真(経済学部3回生)
	データスペシャリスト試験	合格者	50,000	0	
品質管理検定	「一級」合格者	50,000	0		
統計検定「一級」	「統計数理」、「統計応用」のいずれか1科目合格者	50,000	1	富井俊勝(経済学部3回生)	
語学試験	TOEIC(公開テスト)	800点以上	30,000	37	寺本恒心(経済学部4回生) 小平幸輝(経済学部2回生) 重 建偉(経済学部4回生) 服部琴乃(経済学部3回生) 武田光香(経済学部4回生) 井上真菜美(経済学部3回生) 大山泰生(経済学部4回生) 池田幸司(経済学部4回生) 秋山浩希(経済学部4回生) 内海 大(経済学部4回生) 池田真澄(経済学部4回生) 松崎 栞(経済学部3回生) 橋本朋住(経済学部4回生) 梅村隆司(経済学部4回生) 近藤美樹(経済学部1回生) 木下翔太(経済学部3回生) 大浦義貴(経済学部4回生) 藤本優介(経済学部4回生) 才野圭太(経済学部3回生) 刑部真依(経済学部4回生) 堀井 成(経済学部2回生) 守口航平(経済学部3回生) 丸井陽介(経済学部3回生) 前川真史(経済学部4回生) 鬼頭伸典(経済学部2回生) 上原裕一朗(経済学部2回生) 野口大智(経済学部3回生) 河合 巧(経済学部3回生) 渡邊洋一(経済学部4回生) 相田 航(DS学部1回生) 湯川拓哉(DS学部2回生) 他 6名
留学	本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏地域	40,000	0	
		その他の地域	80,000	2	大山泰生(経済学部4回生) 卜部真風(経済学部2回生)
その他	エンベデッドシステムスペシャリスト試験	合格	30,000	1	安田竜輝(経済学部2回生)
	ITストラテジスト試験	合格	50,000	1	安田竜輝(経済学部2回生)
	情報処理安全確保支援士試験	合格	50,000	1	古田将也(経済学部2回生)
	全日本大会平成29年度第38回学生女流名人戦(学生将棋) 西日本大会平成29年度学生女流名人戦 西日本大会平成28年度学生女流名人戦(学生将棋)	第6位 第3位 第4位	70,000	1	鎌田利子(経済学部3回生)
	マクロミル主催・学生対象「データ分析に基づいたマーケティング戦略立案コンテスト2018」決勝プレゼン大会	第3位	30000	2	小西秀明(DS学部2回生) 朱 澤胤(DS学部2回生)
	日本統計学会・第8回スポーツ解析コンペティション・分析部門(バスケットボール)	優秀賞	50000	1	小西秀明(DS学部2回生)
日本統計学会・第8回スポーツ解析コンペティション・分析部門(野球)	奨励賞	30000	1	近藤大貴(DS学部2回生)	

注) 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。



「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは

団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置に伴い、対象試験等の一部を改正しました。

今年度(平成30年4月から平成31年3月受理分)は、左表の通り、57件に対して給付されました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募し

ていただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましては、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後、より良い制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまから是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

報奨金給付者の声

『日商簿記検定試験 一級合格』

経済学部会計情報学科3年生

清澤 英正



私は昨年6月に実施された日商簿記検定一級に合格しました。大学在学中に公認会計士試験合格を目指して、その前段階として日商簿記検定一級を受験しました。日商簿記一級は出題範囲も広く単なる暗記ではなく各論点に関して理解することが大事でした。そのため、まず忙しい日であっても毎日簿記の勉強をすることを心掛けていました。それでも私は市販の教科書や問題集を使って独学で勉強していたため、自分で理解できたと思った論点でも実際問題を解いてみると全くできていないなど何度も壁にぶつかりました。その中で、問題が解けるようになるまで何回も解き直しをすることで自分のものにするのができました。

どの試験を受験する場合にも言えることではありますが、合格するために諦めないことが大事だと分かりました。実際に、合格する実力が身に付いたのは試験日の少し前で、それ

れまでは知識の定着が薄く、全く結果が出ていませんでした。それでも、公認会計士という目標があり、そのために諦めないことが自分の一番の糧になりました。
日商簿記検定一級は合格率が10%程度で難しい試験ではありますが、一つ一つの論点をしっかりと理解していけば合格できる試験です。なので、挑戦する価値のある試験だと思います。

『TOEICテスト 900点』

データサイエンス学部2年生

相田 航



この度、1回生の9月に受けたTOEIC公開テストで取得したスコアが報奨制度の対象となりました。大変光榮に思います。

1回生の5月に学内で受験したIPテストを含め、私は2回しかTOEICの受験経験がありません。つまり、いわゆる「経験値」というものはあまりありません。こうした状況であってもどうにかなったので、どちらかというと、2時間という長丁場を耐えられるか否かのほうが重要でしょう。

別にTOEICのスコアが高いからといって必ず英語ができるというわけではないですし、その逆もまた然りです。満点が990点であることはご存じかと思いますが、検索してみると満点ホルダー

の方がたくさんいることがわかります。数十回連続で満点取得、という方も多数いるようです。つまり、上には上がいることは明らかなので、他人と比較することにはあまり意味はないと思います。無駄に比較をしても、自分が悲しくなるだけです。
勉強法は人によって様々でしょうから、楽しく続けられる方法があるなら、それで問題ないと思います。ただ、リスニングに重きを置くべきだというのが私の考えであります。

私は依然として初学者の域を出られていないので、TOEICやTOEFLのスコアも目標にしつつ、継続して英語の修得に努めていく所存です。

『マーケティング戦略立案コンテスト 決勝プレゼン大会 第3位』

『スポーツデータ解析コンペティション 分析部門(バスケットボール) 優秀賞』

データサイエンス学部3年生

小西 秀明



私はデータサイエンス学部で普段学習している内容を生かす場として「データ分析」に基づいたマーケティング戦略立案コンテスト2018」と「第8回スポーツデータ解析コンペティション」に参加しました。そして、それぞれの大会で決勝プレゼン大会第3位と分析部門優秀賞(バスケットボール)の成績を残

しました。
参加した理由は大学内の学びをアウトプットする場を得るためです。1、2回生の大学の講義では、統計学やプログラミングに関する基礎知識をインプットする機会が多く設けられていません。一方で、その学んだ知識をもとに実際に価値創造を行う機会は講義内でも用意されていますが、限られたものになっています。そこで同じような思いを持った仲間とチームでの参加を決めました。
大会の参加を通して、目的であるアウトプットの場を得たという目的は達成することが出来ました。大学内の講義では感じる事が出来ない社会人からの鋭いビジネス的な観点からの意見や、実際にスポーツ現場で働いている方からの実用面からの意見をいただくことが出来てとても学びになりました。
私たちが興味をもって取り組んできたことが今回の報奨制度の対象となったことを非常に嬉しく思います。今回の成績を受賞するまでに学んできたことを今後の活動に活かしていきたいです。

編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部・DS学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒520-8502 彦根市馬場一丁目1番1号
FAX 0749-271132